

日本国特許庁

PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

JC971 U.S. PRO  
09/784994  
02/14/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて  
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
with this Office.

出願年月日  
Date of Application:

2000年 3月 9日

願番号  
Application Number:

特願2000-065539

願人  
Applicant(s):

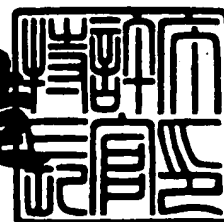
株式会社デンソー

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2001年 1月19日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3111964

【書類名】 特許願

【整理番号】 PN055713

【提出日】 平成12年 3月 9日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04M 1/00

【発明者】

    【住所又は居所】 愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地 株式会社デンソー内

    【氏名】 桑原 建

【特許出願人】

    【識別番号】 000004260

    【氏名又は名称】 株式会社デンソー

【代理人】

    【識別番号】 100096998

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 碓氷 裕彦

    【電話番号】 0566-25-5988

【選任した代理人】

    【識別番号】 100106149

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 矢作 和行

    【電話番号】 0566-25-5989

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 010331

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

    【包括委任状番号】 9912770

【包括委任状番号】 9912772

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 クライアントサーバーシステム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 クライアント側がロケータを指定して所定サーバにアクセスすることにより、その所定サーバが保持しているコンテンツを必要に応じて取得するように構成されているクライアントサーバーシステムにおいて、

前記所定サーバは、アクセスしようとする前記クライアントの端末の製造メーカーを識別する機能を有しており、

前記クライアントは、前記所定サーバへのアクセス時に、前記製造メーカーを識別する識別情報を、前記サーバに送り、

前記所定サーバは前記識別情報をチェックし、このチェック結果が指定の前記製造メーカーの端末であると判断した場合のみ、前記コンテンツを前記端末にダウンロードすることを特徴とするクライアントサーバーシステム。

【請求項 2】 前記所定サーバは、前記製造メーカー以外の端末のアクセスを拒否して、所有する全てのコンテンツの提供を不可能としていることを特徴とする請求項 1 記載のクライアントサーバーシステム。

【請求項 3】 前記所定サーバは、前記製造メーカー以外の端末にでもアクセスを許可するコンテンツを一部有することを特徴とする請求項 1 記載のクライアントサーバーシステム。

【請求項 4】 前記クライアントは、携帯電話であり、この携帯電話は、携帯電話の事業者が運営する事業者サーバーを介して前記所定サーバにアクセスするようになっており、

前記事業者サーバーは、前記携帯電話からのアクセスを受け付け、前記ロケータを識別し、

このロケータ先である前記サーバーに、前記クライアント識別情報、および前記事業者サーバーの事業者識別情報を送信し、

前記所定サーバーでは、前記クライアント識別情報、前記事業者識別情報の両者をチェックすることで、前記コンテンツの提供するか否か判断することを特徴とする請求項 1 ないし 3 いずれかに記載のクライアントサーバーシステム。

【請求項 5】 前記事業者サーバーから前記サーバーに送られるデータ構成は、予め決められたヘッダ領域と、自在に記載可能なデータ領域とからなり、少なくとも前記クライアント識別情報は、前記データ領域に格納されていることを特徴とする請求項 4 記載のクライアントサーバーシステム。

【請求項 6】 クライアントサーバーシステムを利用した携帯電話製造メーカー独自の携帯電話販売方法であって、

前記携帯電話の製造メーカーは、この携帯電話の発売前に、その製造メーカーの端末のみがダウンロードできるコンテンツを含む所定サーバーを運営管理し、

さらに、前記製造メーカーは、前記携帯電話の発売前に、前記携帯電話内部に前記コンテンツのロケータを記憶させておき、その後、

前記製造メーカーは、前記携帯電話をその携帯電話事業者に納入する携帯電話販売方法。

【請求項 7】 前記製造メーカーは、前記所定サーバに前記クライアントの端末の製造メーカーを識別する機能を付加しておき、

前記製造メーカーは、前記携帯電話に前記所定サーバへのアクセス時に、前記製造メーカーを識別する識別情報を、前記所定サーバに送る機能を付けて前記携帯電話事業者に納入し、前記ユーザーに前記コンテンツを提供することを特徴とする請求項 6 に記載した携帯電話販売方法。

【請求項 8】 所定サーバーにアクセスすることで、必要なコンテンツがダウンロード可能な携帯電話であって、

発売時にその電話の製造メーカーの端末のみがダウンロード可能なコンテンツのロケータを記憶している携帯電話。

【請求項 9】 所定サーバーにアクセスすることで、必要なコンテンツがダウンロード可能な携帯電話であって、

その製造メーカーの電話のみが閲覧できるコンテンツをダウンロード可能なブラウザを搭載した携帯電話。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、クライアントがサーバにアクセスすることにより、そのサーバが保持しているコンテンツを必要に応じて取得するように構成されているクライアントサーバシステム、それを用いた携帯電話、携帯電話の販売方法に関する。

#### 【 0 0 0 2 】

##### 【従来の技術】

例えば、インターネット上においては、パーソナルコンピュータや携帯電話（クライアント）等を使用するユーザがWWW(World Wide Web)ブラウザを起動して、企業や団体、或いは個人などがWWWサーバ上において開設しているホームページ（サイト）にアクセスし、画像や文字、或いは音声などの情報（コンテンツ）データをダウンロードすることが行われている。そして、クライアント側にダウンロードされたデータが例えば画像データであればディスプレイ上に表示され、ユーザは、ホームページの画像を閲覧することができる。

#### 【 0 0 0 3 】

##### 【発明が解決しようとする課題】

この場合、あるホームページに対してどのようなクライアントがアクセスしたとしても、そこからダウンロードできるコンテンツデータは常に同一である。より具体的に言えば、例えばあるホームページに対して、A社製、B社製、C社製の携帯電話が夫々アクセスした場合、各社の携帯電話がブラウザによって閲覧できる画像等は全く同じであり、製造メーカーによって、差別化、つまり特色を出すことができず、面白みがなかった。

#### 【 0 0 0 4 】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、ある製造メーカーのクライアント（端末）を、他社メーカーのクライアントより差別化でき、より特色が出せるクライアントサーバシステム、携帯電話、及び携帯電話販売方法を提供することにある。

#### 【 0 0 0 5 】

##### 【課題を解決するための手段】

請求項1記載の発明によれば、クライアント側がロケータを指定して所定サーバにアクセスすることにより、その所定サーバが保持しているコンテンツを必要

に応じて取得するように構成されているクライアントサーバシステムにおいて、前記所定サーバは、アクセスしようとする前記クライアントの端末の製造メーカーを識別する機能を有しており、前記クライアントは、前記所定サーバへのアクセス時に、前記製造メーカーを識別する識別情報を、前記所定サーバに送り、前記サーバは前記識別情報をチェックし、このチェック結果が指定の前記製造メーカーの端末であると判断した場合のみ、前記コンテンツを前記端末にダウンロードすることを特徴としている。

【 0 0 0 6 】

これにより、例えば所定サーバ上で開設されているホームページ（コンテンツ）に対して、A社製、B社製、C社製のクライアント（端末）が夫々アクセスすることを想定する。この時、所定サーバ側では、クライアントから送られる識別情報にて、正規の製造メーカー（A社製とする）のクライアントかチェックする。そして、このチェック結果が正規の製造メーカーAであると、判断すると、コンテンツをクライアントAにダウンロードするよう処理する。一方、B社製、C社製の何れの端末装置がアクセスしてきた場合では、コンテンツのダウンロードが拒否される。

【 0 0 0 7 】

この結果、製造メーカーAは、他の製造メーカーB、Cに対して、専用の独自のコンテンツをダウンロードでき、製造メーカー独自の特徴、特色を出し、差別化を果たすことができる。

【 0 0 0 8 】

また、例えば、所定サーバ内コンテンツとしては、請求項2記載の発明のように、サーバは、製造メーカー以外の端末のアクセスを拒否して、所有する全てのコンテンツの提供を不可能としても良い。また、請求項3記載の発明のように、所定サーバは、製造メーカー以外の端末にでもアクセスを許可するコンテンツを一部有するようにしても良い。

【 0 0 0 9 】

また、請求項4記載の発明では、クライアントは、携帯電話であり、この携帯電話は、携帯電話の事業者がサービスを運営する事業者サーバを介して前記所

定サーバーにアクセスするようになっており、事業者サーバーは、携帯電話からのアクセスを受け付け、ロケータを識別し、

このロケータ先である所定サーバーに、クライアント識別情報、および前記事業者サーバーの事業者識別情報を加えて送信し、サーバーでは、クライアント識別情報、事業者識別情報の両者をチェックすることで、コンテンツの提供するか否か判断することの特徴としている。

【 0 0 1 0 】

ここで、携帯電話の事業者は、その管理下にある携帯電話へのサービスの窓口となる事業者サーバーをネットワーク上に配置している。従って、その事業者の管理下にある携帯電話（A、B、C社製）は、事業者サーバーを経由して、必要なコンテンツを携帯電話に提供することが一般的である。

【 0 0 1 1 】

そこで、請求項4によれば、このような事業者のコンテンツ提供サービスにおいて、サーバでは、事業者サーバを経由した識別情報である事業者識別情報と、クライアント識別情報との両方をチェックすることで、事業者サーバを経由しないでサーバにアクセスする不正者、クライアント識別情報を持たない不正なアクセス者を厳しくチェックすることができる。

【 0 0 1 2 】

また、請求項5記載の発明では、請求項4記載の発明において、事業者サーバーから所定サーバーに送られるデータ構成は、データ構成は予め決められたヘッダ領域と、自在に記載可能なデータ領域とからなり、少なくとも前記クライアント識別情報は、前記データ領域に格納されていることを特徴としている。

【 0 0 1 3 】

これにより、クライアント識別情報が自在に記載可能なデータ領域に格納されているため、クライアント識別情報をヘッダ領域に記載するのに比べて、不正者がクライアント識別情報を偽造して、サーバーにアクセスすることを厳しく規制することができる。

【 0 0 1 4 】

また、請求項6記載の発明では、クライアントサーバーシステムを利用した携



携帯電話製造メーカー独自の携帯電話販売方法であって、携帯電話の製造メーカーは、この携帯電話の発売前に、その製造メーカーの端末のみがダウンロードできるコンテンツを含む所定サーバーを運営管理し、さらに、製造メーカーは、携帯電話の発売前に、携帯電話内部に前記コンテンツのロケータを記憶させておき、その後、製造メーカーは、携帯電話をその携帯電話事業者に納入する携帯電話販売方法。

【0015】

これにより、携帯電話メーカーは、この携帯電話の発売前に、その製造メーカーの端末のみがダウンロードできるコンテンツを含むサーバーを運営管理しておき、さらに、製造メーカーは、携帯電話の発売前に、携帯電話内部に前記コンテンツのロケータを記憶させているので、発売時には、ユーザーは、すぐさまその携帯電話で独自のコンテンツを閲覧でき、製造メーカーの差別化、特徴をより容易に出して、携帯電話を携帯電話事業者に納入販売できる。

【0016】

また、具体的には、請求項7に記載の発明のように製造メーカーは、所定サーバーにクライアントの端末の製造メーカーを識別する機能を付加しておき、製造メーカーは、前記携帯電話に前記所定サーバへのアクセス時に、前記製造メーカーを識別する識別情報を、前記所定サーバに送る機能を付けて前記携帯電話事業者に納入し、前記ユーザーに前記コンテンツを提供するようにすると良い。

【0017】

また、請求項8に記載の発明では、所定サーバーにアクセスすることで、必要なコンテンツがダウンロード可能な携帯電話であって、発売時にその電話の製造メーカーの端末のみがダウンロード可能なコンテンツのロケータを記憶していることを特徴としている。

【0018】

これにより、その製造メーカーの携帯電話では、他社の携帯電話では閲覧不可能なコンテンツを閲覧でき、携帯電話の差別化、特徴を出すことができる。

【0019】

また、請求項9に記載の発明では、所定サーバーにアクセスすることで、必要な

コンテンツがダウンロード可能な携帯電話であって、その製造メーカーの電話のみが閲覧できるコンテンツをダウンロード可能なブラウザを搭載したことを特徴としている。

#### 【 0 0 2 0 】

これにより、請求項 8 記載の発明と同様に携帯電話の差別化、特徴を出すことができる。

#### 【 0 0 2 1 】

##### 【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施形態について図 1 乃至図 5 を参照して説明する。図 1 はクライアントサーバシステム 1 の概略構成を示すものである。なお、本実施例における携帯電話を仮に D 社が製造したものとして説明する。

#### 【 0 0 2 2 】

携帯電話（クライアント、携帯型無線通信装置）2 の内部には、WWWサーバ上に提供されているホームページにアクセスして必要なコンテンツのデータをダウンロードするためのアプリケーションソフトウェアであるブラウザ 3 が組み込まれて（インストールされて）いる。なお、ブラウザ 3 は、図 3 に示すように携帯電話 2 が事業者へ納入する前、すなわちユーザーに販売する前に製造メーカー D にてインストールされている

携帯電話 2 は、その管理下にある事業者サービス（ネットワーク 5 0）において、基地局 4 を介して音声通話が可能となっている。また、上記ネットワーク 5 0 は、基地局 4 を介して管理センタ 5（本発明の事業者サーバ 5 1）にアクセス可能となっており、インターネット上のコンテンツを携帯電話 3 に提供可能となっている。つまり、事業者は、自社のサービスとして、インターネット 6 上のコンテンツを携帯電話にダウンロードするデータ情報サービスを運営管理し、加入者促進を図っている。

#### 【 0 0 2 3 】

管理センタ 5 には、上記インターネット 6 を介して専用サーバ 7（本発明の所定サーバ）が接続されており、その専用サーバ 7 上において様々なサイトが提供されている。また、CGI 8 はサーバ 7 に組み込まれており、携帯電話 2 などの

クライアントによってサーバ7にアクセスが行われる場合に、そのアクセスを制御するためのインターフェイスソフトウェアである。

【0024】

図2は、携帯電話2の内部における電氣的構成を示す機能ブロック図である。図2において、携帯電話2は、マイクロコンピュータなどからなる制御回路9を中心として構成されている。制御回路9には、操作キー10からの操作信号が与えられるようになっている。また、制御回路9は、LCD（表示手段）11における表示を制御するようになっている。送話用のマイク12に入力された音声信号は、音声処理部13によりA/D変換されると、データ変換部14により例えば $\pi/4$ シフトDQPSK(Differential Quadrature Phase Shift Keying)信号に変換される。

【0025】

DQPSK信号は、送受信部15において例えば800MHz帯の搬送波信号によって直交変調され、アンテナ16から電波信号として外部に送信されるようになっている。一方、アンテナ16が電波信号を受信すると、受信信号は上記と逆の経路で復調されD/A変換されて、受話用のスピーカ17より音声信号として出力される。

【0026】

制御回路9は、音声処理部13，データ変換部14，送受信部15の制御を行うようになっている。また、制御回路9には、ROM，RAMやEEPROMなどからなる記憶部18が接続されており、制御回路9は、必要に応じて記憶部18に対するデータの書込みや読出しを行うようになっている。

【0027】

音源IC（楽音出力手段）19は、着信用のメロディー等を発生させるためのICであり、制御回路9より与えられるデータに応じた楽音を、音源用スピーカ（楽音出力手段）20を介して出力するようになっている。

【0028】

また、携帯電話2は、音声データの送受信による通話の他にデータ通信も可能に構成されており、クライアントサーバシステム1においてデータ通信を行うよ

うになっている。尚、ブラウザ 3 は、携帯電話 2 の記憶部 1 8 に記憶されており、制御回路 9 により読み出されて実行される。また、記憶部 1 8 には、上記専用サーバ 7 へのロケータ (URL) が記憶されており、操作キー 1 0 を操作することで、容易に専用サーバ 7 へアクセスが可能である。ロケータは、携帯電話 2 が事業者に納入前 (発売前) に、製造メーカー D で予め格納されている。

#### 【 0 0 2 9 】

次に、本実施例の作用について図 4、図 5 をも参照して説明する。図 5 は、クライアントである携帯電話 2 がサーバ 8 にアクセスして、コンテンツデータをダウンロードする場合におけるシーケンスの概略一例を示すものであり、事業者サーバ 5 1 と、専用サーバ 7 との通信は、TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) 上で実行される手順である。また、携帯電話 2 と基地局 4 (管理センター 5) との間は、特に上記 TCP/IP でなくても良く、どのような通信手順であってもよい。

#### 【 0 0 3 0 】

ここで、携帯電話 2 は例えば D 社製で、サーバ 7 も D 社が管理しており、そのサーバ 7 上において D 社のホームページが開設されているものとする。

#### 【 0 0 3 1 】

先ず、①の処理として、携帯電話 2 側のブラウザ 3 は、ユーザの操作によって起動され、その画面表示で、表示される上記記憶部 1 8 に記憶されたロケータ (URL) を選択する。このように、専用サーバ 7 内のコンテンツ (D 社のホームページのトップ: ページ (A) のコンテンツデータをダウンロードするための URL が指定されると、そのページ (A) の要求を事業者サーバ 5 1 側に送信する。

#### 【 0 0 3 2 】

そして、この送信データとしては、携帯電話 2 が事業者の管理下にある端末であるかを示す事業者識別情報 (例えば J) と、その携帯電話の製造メーカーを表すメーカー識別情報 (例えば DN、本発明のクライアント識別情報) を含む。

#### 【 0 0 3 3 】

すると、これを受け取った事業者サーバ 5 1 は、事業者識別情報 J を識別し

、正規の携帯電話であるかチェックし、このチェックがOKであると、さらに要求されたURL、およびメーカー識別情報、を、図4のTCP/IPのデータフォーマットで専用サーバ7に送る。また、このデータフォーマット（データ構成）は、周知のように、予め決められたヘッダフィールド（領域）と、自在に記載可能なデータフィールドとからなり、上記URLは、データフィールドに格納されている。また、メーカー識別情報も、データ領域に格納されている。

#### 【0034】

このようにメーカー識別情報DNが自在に記載可能なデータ領域に格納することで、メーカー識別情報をヘッダフィールドに記載するのに比べて、不正者がメーカー識別情報を偽造して、サーバにアクセスすることを厳しく規制することができる。

#### 【0035】

次に②の処理では、専用サーバ7では、図4に示すデータを受け取ると、そのデータの中に含まれるメーカー識別情報DN、および送信元であるサーバ識別情報（本発明の事業者識別情報）である送信元IPアドレスの両方をチェックする。これにより、事業者サーバ51を経由しないで専用サーバ7にアクセスする不正者、メーカー識別情報DNを持たない不正なアクセス者を厳しくチェックすることができる。

#### 【0036】

そして、専用サーバ7は、このチェックにより、IPアドレス、メーカー識別情報が共に、専用サーバ7で予め記憶されているデータと一致した場合は、携帯電話2によって要求されたページ（A）のHTML(Hyper Text Makeup Language)ソースファイル（コンテンツ）を、事業者サーバ51を介して携帯電話2側にダウンロードさせる。

#### 【0037】

すると、携帯電話2の記憶部18内にあるRAMには、ページ（A）のHTMLソースファイルがダウンロードされる。続いて、ブラウザ3はHTMLソースファイルのコードを解析し、表示可能な部品の画像データをLCD11に出力する。また、ソースファイル中に例えば写真等の画像情報が存在する場合には、サ

サーバ7に対してその画像を要求し、画像データをダウンロードする。なお、携帯電話2にダウンロードされるデータは、画像（背景画像など）、音楽データ等である。

【 0 0 3 8 】

一方、専用サーバ7は、上記チェックにより、IPアドレス、メーカ識別情報の一方でも、専用サーバ7で予め記憶されているデータと一致しない場合、つまり、他社メーカーの携帯電話がアクセスした場合は、アクセスを禁止したり、③のように警告を表わすページをダウンロードする。もしくは④のようにページ送信拒否あるいは無視をする。

【 0 0 3 9 】

以上のように、専用サーバ7内のコンテンツは、製造メーカーD社の携帯電話でしかダウンロードできず、この結果、製造メーカーDは、他の製造メーカーに対して、専用の独自のコンテンツをダウンロードでき、製造メーカー独自の特徴、特色を出し、差別化を果たすことができる。

【 0 0 4 0 】

また、製造メーカーDは、予め専用サーバ7のURLを記憶部18に記憶させ、ブラウザ3で容易にURLを選択しアクセスできる状態で、事業者に納入販売するため、製造メーカー独自の特徴、特色を出し、差別化を果たした携帯電話を容易に販売することができる。

【 0 0 4 1 】

本発明は上記し且つ図面に記載した実施例にのみ限定されるものではなく、次のような変形または拡張が可能である。

【 0 0 4 2 】

上記実施例におけるクライアントサーバシステムにおいて、専用サーバ7は、製造メーカーD以外の電話端末のアクセスを拒否して、所有する全てのコンテンツの提供を不可能としているが、専用サーバ7は、製造メーカーD以外の端末にでもアクセスを許可するコンテンツを一部有するようにしても良い。

【 0 0 4 3 】

また、上記実施例では、専用サーバ7は、電話製造メーカーDが運営したが、

メーカーDが他の会社に委託して、設置しても勿論よい。要は、携帯電話2のブラウザ3と専用サーバ7のCGIプログラムとがマッチしてれば良い。

【0044】

また、上記実施例では、サーバ識別情報としてヘッダーフィールドの送信元IPアドレスを使用した。が、事業者サーバ51で独自に識別情報を付与し、これをデータフィールドに格納しても良い。

また、本発明では、クライアントは、携帯電話2に限らずPHS (Personal Handyphone System) でも良い。また、モデムやTAを介して通信可能であるパーソナルコンピュータなどでも良い。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施例において、クライアントサーバシステムのシステム図を表わす図である。

【図2】

上記実施例において、携帯電話の電氣的構成を示す機能ブロック図である。

【図3】

上記実施例における携帯電話の販売ルートを表わす図である。

【図4】

IPデータグラムのフィールド構成図

【図5】

上記実施例におけるクライアントサーバシステムの処理を表わす図である。

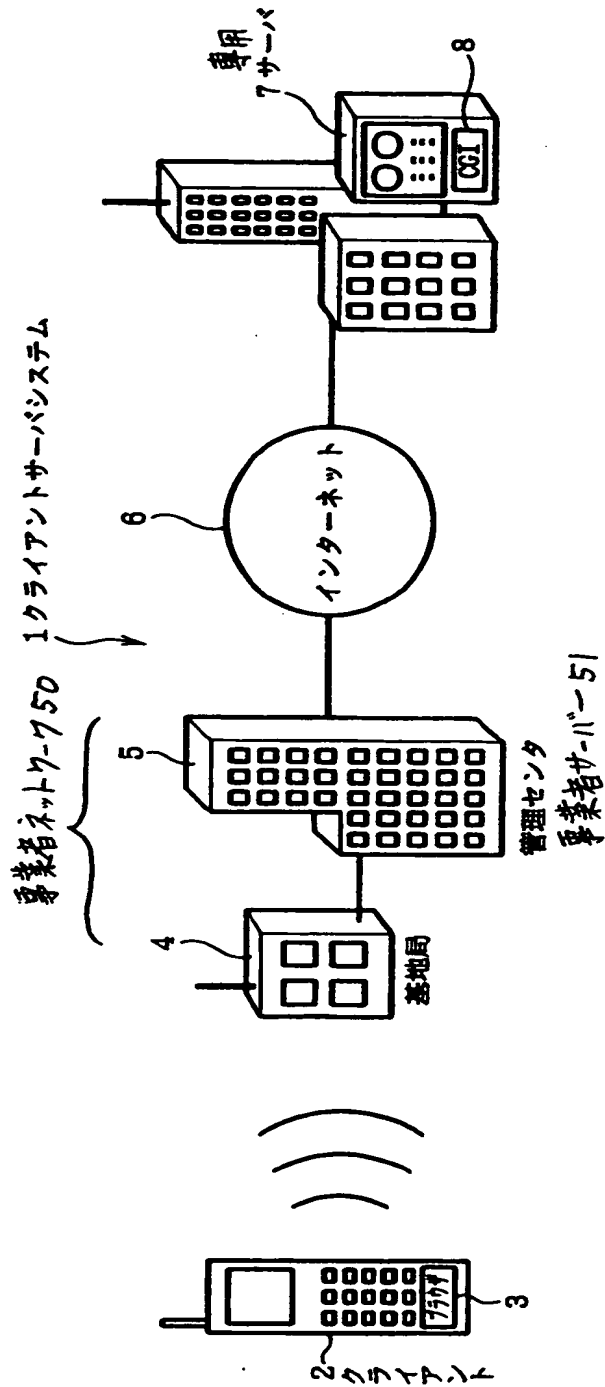
【符号の説明】

1はクライアントサーバシステム、2は携帯電話（クライアント、携帯型無線通信装置）、3はブラウザ、7はサーバ、8はCGI。

【書類名】

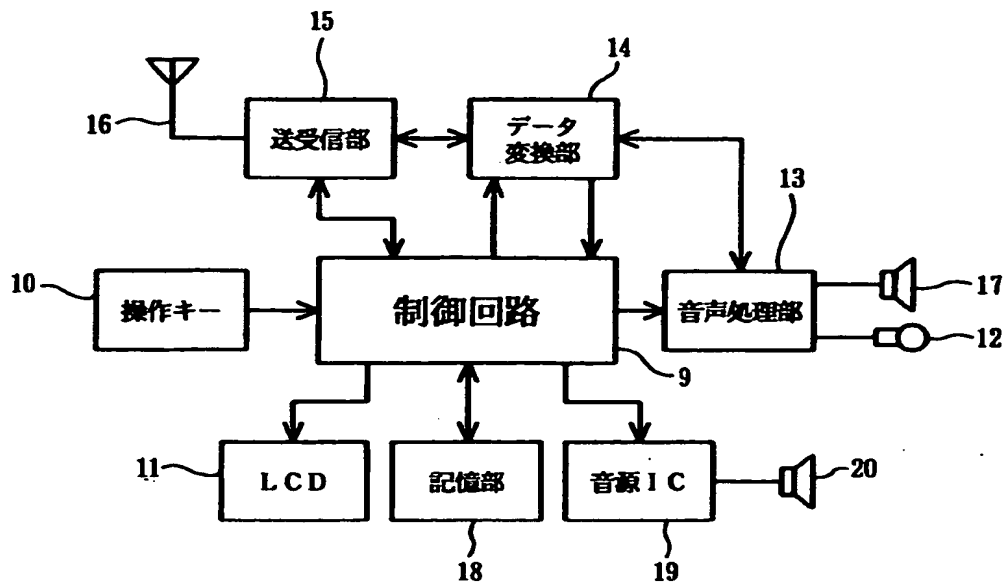
図面

【図 1】

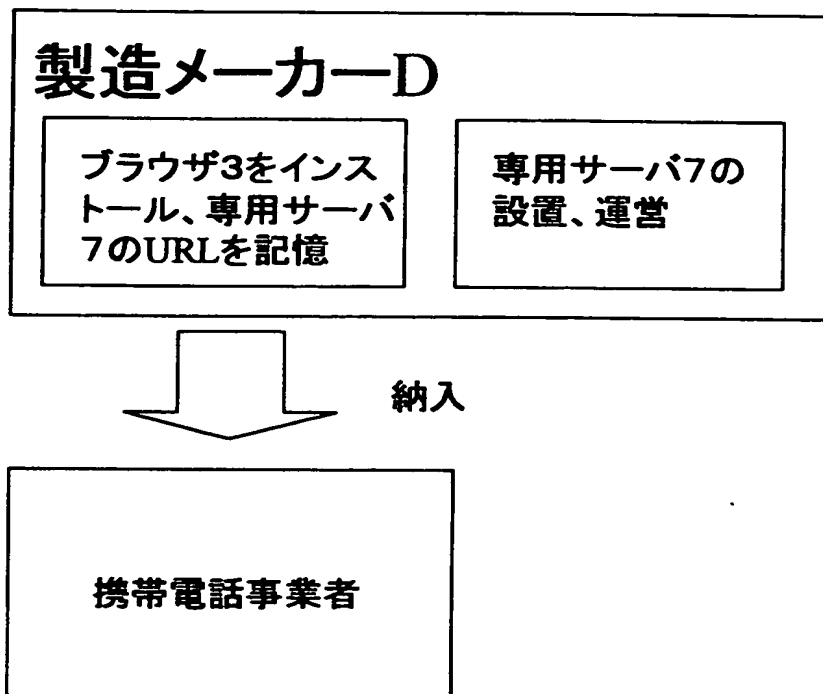




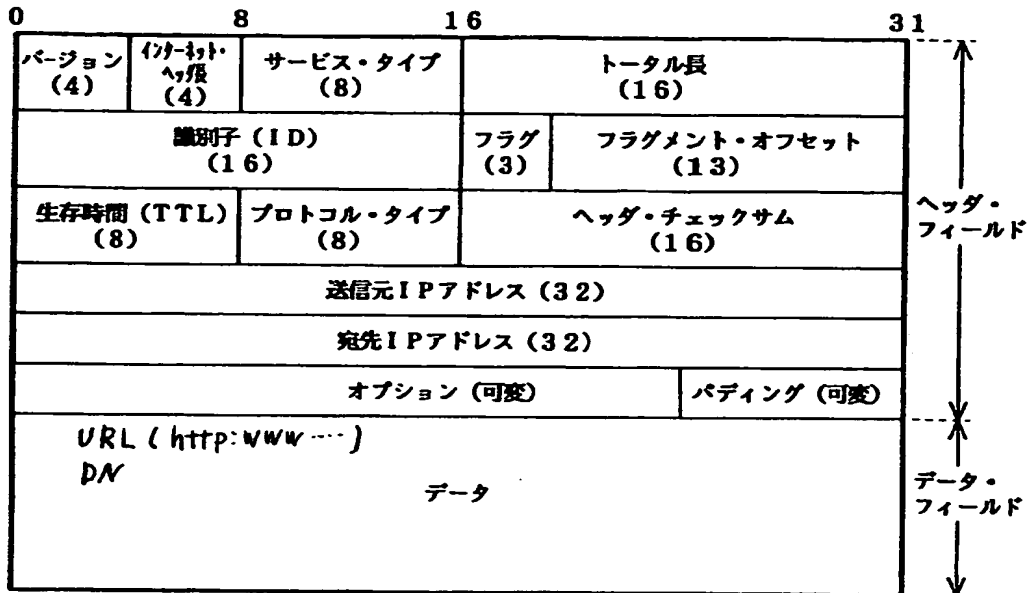
【図2】



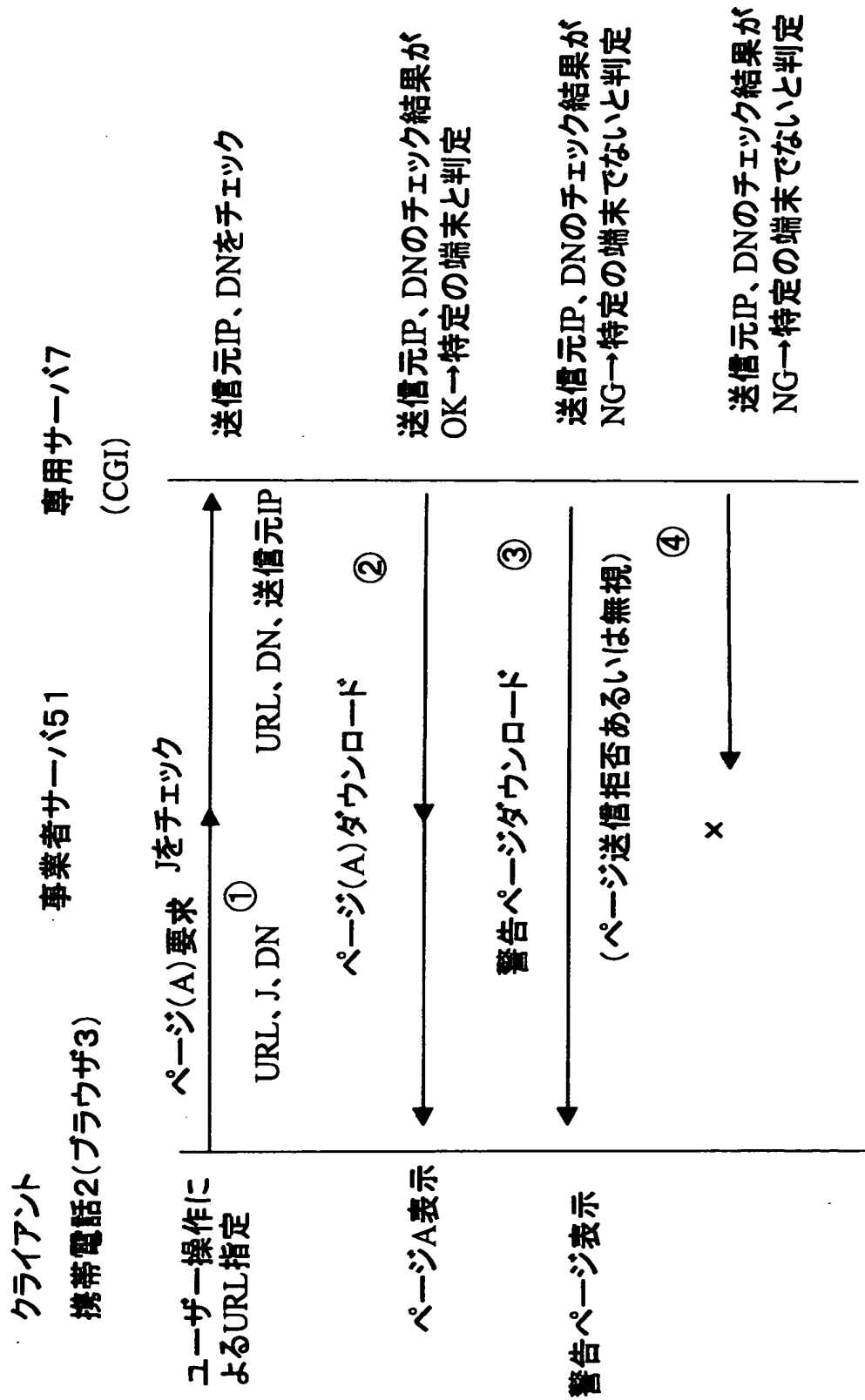
【図3】



【図 4】



【図5】



【書類名】            要約書

【要約】

【課題】    ある製造メーカーのクライアント（端末）を、他社メーカーのクライアントより差別化でき、より特色が出せるクライアントサーバシステム、携帯電話、及び携帯電話販売方法を提供することにある。

【解決手段】    専用サーバ内のコンテンツは、製造メーカーD社の携帯電話でしかダウンロードできず、この結果、製造メーカーDは、他の製造メーカーに対して、専用の独自のコンテンツをダウンロードでき、製造メーカー独自の特徴、特色を出し、差別化を果たすことができる。

【選択図】            図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000004260]

1. 変更年月日	1996年10月 8日
[変更理由]	名称変更
住 所	愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地
氏 名	株式会社デンソー